

第4号 会報

# めいおんの会

発行 平成24年7月2日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

## 4年目を迎えた「めいおんの会」

会長 百合草 薫 (45年卒)

平成21年に発足した「めいおんの会」は、会員の皆様のご協力ならびに高橋学長先生を始め、大学関係者の温かいご理解・ご支援のおかげで、本年度4年目を迎えることができました。名古屋市立に勤務する方を対象にスタートした本会も年を追うごとに会員が増え、今では80名を超えるほどになりました。また、最近では他の自治体に勤務している方からの入会希望も寄せられるようになり、本年度より愛知県及び他府県に勤務されている方にも入会していただけるようにいたしました。

「めいおんの会」の事業につきましては、本年度から同窓会にも後援をしていただけることになり、新卒者には卒業式後の同窓会入会式で、本会について説明をさせていただきました。また、大学のキャリア支援センターのご協力を仰ぎ、教職に就いた新卒者へ入会案内を送付いたしました。今後、広い範囲にわたって同窓同職のネットワークが築かれ、会員相互の絆が深まっていくことを願っています。

これからも本会の一層の充実を図ってまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 教員生活を振り返って

前・味鋺小学校 森 幸子  
(49年卒)

私が名古屋音楽短期大学を卒業し、初めて小学校の教壇に立ったのは、昭和49年。現場の先生方の強い要望で音楽専科の教員がたくさん採用された年でした。あれから38年...、今年退職をしました。

38年間の教員生活は、初めの13年は音楽専科として、残りの25年は担任として、5つの小学校に勤務しました。担任になった昭和62年当時は、専科から担任に変わるの難しく、校長先生の推薦でやっと担任に変われるという状況でした。そんな中で、担任になったのは音楽だけでなく、いろいろな場面で、子どもと深く関わりたいと思ったからです。

私生活では、結婚し3人の子どもに恵まれ、たくさんの方に支えられて仕事を続けることができ、「感謝」の一言に尽きます。しかし、担任に変わってからの生活は、忙しくて毎日本当に大変でした。でも、学校での経験が子育ての参考になり、家庭での子育てがすぐ仕事に生かして、「なんて素晴らしい仕事だろう。」と思いました。苦手だった理科の学習のおもしろさや算数の足し算や掛け算の意味を知り、「教えることは学ぶこと」という言葉を実感しました。また、学ぶ楽しさも改めて感じました。

担任になってからも、もちろん子どもたちと音楽活動を楽しみました。朝の会で歌う歌は、教室の雰囲気をも明るくしました。部活動で育休中の先生に代わって久しぶりに区の音楽会の舞台に立って指揮をした時は、舞台の子どもたち一人一人と心がつながる喜びを感じました。音楽と笑顔は教師だった私にとって大切なキーワードでした。

仕事を辞め、平日の穏やかな午後に願うことは、日々現場で子どもたちと向き合って頑張っている先生方の健康とご活躍です。心からエールを送ります。

【会員の異動】 敬称略（卒年） 名古屋市立は市名略 愛知県は市町村名、他は都道府県名を記す。

## 本務教員

<退職> お世話になり、ありがとうございました。

森 幸子(49)味鏡小

<転任>

小林 敦子(55)白水小→中根小 太田 朱美(57)楠中→伊勢山中

川合 恒之(58)黄金中教頭→守山西中教頭 藤松 真人(59)桜山中教務→名塚中教頭

今井 利佳(60)比良小→城北小 安藤 みさ(62)豊正中→助光中 林 昌子(9)稲葉地小→八幡小

<新任> よろしくお願ひします。

高井 美沙(24)三重・八風中

講師（24年度勤務校 6月25日現在）

杉山まり子(50)名北小

宮田 靖子(4) 八社小

三宅 恵(18)東海・大田小

瀬瀬 祐子(51)諏訪小

古橋 幸子(6) 井戸田小

松田那奈代(20)御器所小

谷口紀美江(56)天白養護

吉田 友紀(6) 赤星小

伊藤 美緒(21)西前田小

大須賀典子(56)高木小

入江 允(12)東海小

時田 圭(21)東京・大泉第二小

鬼頭 美佐(58)桃山小

相坂 晴美(17)野田小

三浦あゆみ(22)供米田中

出井 令子(62)中島小

小野 優夏(17)大磯小

戸田 高嶺(22)春日井・鷹来中

木下まゆみ(63)旭出小

水野 真里(17)一柳中

<新任> よろしくお願ひします。

桐村亜沙子(22) 岐阜・大野中

塙美(24)三重中

水谷 成孝(24)三重・木曾岬小

井田麻由美(24)三重・常磐中

花井 友紀(24)大府・大府西中

## 【金賞への道②】

### 吹奏楽部を指導して

港南中学校 伊藤 信穂（16年卒）

名音大を卒業し、数年間小学校の音楽専科を勤めました。その後、教員採用試験に合格し、今年で4年目を迎えました。一昨年から吹奏楽部の顧問を務めることとなり、昨年度は本大会に出場させていただくなど、子どもたちの頑張りのおかげで私自身も貴重な経験をすることができました。しかし、伝統ある本校の部を引き継ぐことは正直不安ばかりで、一昨年度は部員との話し合いに加え、保護者への説明も多くありました。「なぜ部活動をやるべきなのだろうか。」という悩みを感じながらも、名音大出身であり本校に勤務されている北村先生にも支えられ、なんとか続けることができました。

今は、音楽が好きで毎日部活動に来る子どもたちを前に、自分に何ができるかを考える日々です。中学生の子どもたちにとって何が大切なのかを見失わないよう、名音大で学んだ音楽を楽しむための厳しさや人への思いやり、感謝の気持ちなどを、音楽を通して子どもたちに伝えていきたいと思っています。

（平成23年度 愛知県吹奏楽コンクール名古屋市大会 金賞、中部日本吹奏楽コンクール本大会 準優勝）

## 【私の近況】

### 4年間を振り返って

本城中学校 辻 麻沙美（20年卒）

私は今年、教員になって5年目を迎えました。思い返してみればこの4年間、日々無我夢中に過ごしてきたように思います。

教員になる前に予想していた以上に様々な仕事があり、音楽の授業はもちろんのこと、学級経営、生徒会活動、部活動・・・など、たくさんの仕事をこなすことに日々いっぱいいっぱいでした。しかし、そんな中でもここまで仕事を続けられ、この仕事が好きでいられるのは理由があります。

その理由の一つは、やはり子どもたちの成長を日々身近に感じられることです。授業で歌が苦手だった子が以前より堂々と歌えるようになったり、クラスで提出物をきちんと出せなかった子が毎日出せるようになったり、生徒会活動で生徒たちと一緒に企画し、考えた行事が全校生徒に喜んでもらえたり・・・この仕事には日々数え切れないほどの感動があります。何より嬉しいのは、自分が一生懸命やると子どもたちから必ず何か返ってくるということです。それが今の自分の原動力となっています。

もう一つの理由は、周りの先生方の温かいサポートのおかげです。学級経営に悩んだとき、いつも相談にのって助言して下さる先生、授業で思うようにいかないとき、自分のことのように一緒に考えて下さる先生、私が困っていることを気にかけて日々見守って下さる先生・・・。私は素晴らしい先生方と一緒に仕事ができていることに感謝しています。

これからも、生徒や先生方との出会いを大切に、生徒と向き合い、自分なりに精一杯努力していきたいと思います。生徒にとって身近に感じられる先生でありたいと思います。

**<お知らせ>** 8月26日（日）10:30～15:00 総会・研修会（めいおんホール）、懇親会（学園食堂）

講師：名古屋音楽大学教授・音楽学部長 水谷 榮子先生（ピアノ）、同教授 金山 正一先生（ピアノ）